

学力検査問題「国語」(その一)

(2022 一般 II)

解答はすべて解答题用紙に記入せよ。

1

枠線内は、物語のあらすじと登場人物である。次の文章を読んで、問一～問八に答えよ。

あらすじ 独り暮らしの自転車屋さん、その店の前の喫茶店の女主人、退職して独り暮らしで犬を飼った老人、駆け落ち結婚の十代の若夫婦……、東京の郊外の町でひっそりと、それぞれが孤独を抱え、しかし真剣に生きる人たちを温かく見守るのは、大通りの梶並木。人びとのさり気ない思いやりにより、相手を思う愛情に気づかされる人間ドラマが展開する。

小田さん 梶通りで自転車屋を営む、世話好きで心優しい老人。結婚後一年目で娘が生まれたが、戦争で徴兵され、妻子を残して出征した。終戦五年後に帰国すると、大空襲により家族も家もなくなって、写真すら手にすることができなかった。その後四十年以上孤独な生活を送るなかで、小学生の健治を自ら引き取り、一年以上心を込めて育てる。町のサッカーチームの規定では、入団は五年生以上だが、サッカー好きな健治のために、年齢に満たない健治の入団を監督に頼み、見習生ということで、入団が認められる。

村山健治 四歳の時両親は離婚。その後アパートで父親に育てられる。小学生二年生の時、父親が行方不明となり、四日間何も食べられず、父親の知人の小田さんを頼って家に行くと、そのまま引き取られ、約一年以上育てられる。ロッキーズという少年チームに入団してから熱心に練習して、他の五年生以上の仲間からも一目置かれる活躍をする。

健治の父親 健治を愛しているが、事業に失敗し、暴力団がらみの詐欺事件に関与して、行方不明に。健治を小田さんに預けて、自首して逮捕され、大阪の拘留所に拘留される。

健治の母親 健治四歳の時離婚し、その後他の人と再婚。新たに二人の子供をもうける。再婚相手を説得して、健治を引き取ろうとする。

十二月の中旬というのに、雷雨をともなった季節はずれの台風が関東地方をオソツタ^①。

風も強く、夜半から明け方まで家をきしませるほど吹き荒れた。

翌朝、風雨はおさまった。

梶通りの木々は、すっかり葉を失ってしまった。喫茶店「ロンド」の前のつむじ曲がりの櫛も、さすがに初冬の台風には太刀打ちできなかった。

一夜にして裸にされてしまった櫛が、黒ずんだ大枝をひろげて、無念そうに空へ訴えかけているようだ。

小田さんは、店先に立って並木を見ている。

冬景色となった梶通りなのだが、意外なほど暖かい。つなぎの作業服だけで立っていても、まったく寒さを感じられない。

「まったく、おかしな具合だ」

小田さんの眉間に皺^②がよっているのは、四日ほど前からだ。毎日皺が深くなって、今朝は悲愴^aの趣さえある。

「一月の大雪といい夏の猛暑といい、すっかり狂ってしまった。これじゃあ、櫛ばかりでなく人間までもおかしくなってしまうよ」
誰に言うでもなく喋^③っている。

櫛の高いコズエ^④が、かすかな光を帯びているのは、太陽が雲間から射しはじめたからなのだろう。

「どうも今年は奇妙な年だったな」

小田さんは、つぶやきながらコズエを見あげて、タメイキ^⑤をついた。

今日、男の子が母親に引き取られていく。――昼すぎに、クルマで迎えに来るのだそうだ。

決まったのは、四日前だった。

弁護士と母親から前後して電話がきて、ほぼ一方的に言い渡された。

「長いあいだお世話になりました、と依頼人は申ししております。いずれ出所しましてから改めてお礼にうかがう、ということですが」

弁護士は、きわめて事務的に言った。もはや話しあう必要も、抗議を聞く余地もない、ということを示そうとしているようであった。

「健治君の母親と相談しましたところ、四日後の水曜日に引き取らせていただきたいということです。……学校関係の手続きがありますので」
弁護士の電話が終わって十分もたたないうちに、こんどは母親からかかってきた。

「どうやら両者のあいだに段取りがついているらしかった。

「勝手を言って申しわけございませんが、よろしくお願いいたします。転校届やなんかをいたしますには、平日でないといけませんので。……
主人がクルマと一緒に来てくれると言いますが、平日で主人が会社を休めるのは、この日しかないんです」

「そうですか」

学力検査問題「国語」(その二)

(2022 一般Ⅱ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

小田さんは、不機嫌そうに応えた。

「じゃあ、そうなさい」

まったく勝手な言いぐさだ、と思った。手続きなどは、母親一人でもできるはずである。

引き取ると決めたのだから、母親なら一日も早く、一人でも飛んでくるのがほんとうだろう。

「せつかく主人が迎えに行ってくれると申しますので……」^②

小田さんの内心をさとつたように、母親は切なげに言ったのだった。

櫛通りを眺めながら、小田さんはまた眉間の皺を深くした。

櫛通りをランニングする男の子を、明日からは見ることができないのだ。

いまごろ、男の子は学校の教室で、同級生に送別会を開いてもらっているはずである。

——ちゃんと別れのアイサツ^⑤ができたろうか、泣かずに帰ってこれるだろうか、と小田さんは思った。

四日前、迎えの来ることを告げたとき、男の子は唇^③を引き締めてから、

「うん、……わかった」

ぽつんと、それだけ応えた。

小田さんの顔は見なかった。

「勉強道具だの洋服だの、きちんとそろえて準備しときなよ。……凶鑑やなんかは持って行っていいんだよ、みんな健治くんのものなんだか

ら」

小田さんは、さりげなく言った。

古い半ズボンや一、二年生の子の教科書、クレヨンで描いた絵など、男の子の成長の跡を示すものを、段ボールに入れて二階の押し入れにしまっている。

前に父子のいたアパートから持ってきたものだが、それも持たせてやろうと、小田さんは考えていた。

「向こうへ行っても、サッカーをやるんだろ？ 向こうのチームに入ると、すごい新人が来たって、きっと大歓迎されるぞ」

小田さんが言うと、男の子はほのかに笑った。しかし、日焼けした顔が、すぐに硬い表情になった。それは、近いうちに母親のもとへ引き取られることになる、と初めて小田さんが告げたときに見せたのと同じ顔つきだった。

そのときは、硬い表情で小田さんを見つめたまま、

「いやだ」

と一言だけ叫んだきり、男の子は涙をぼろぼろ流しつづけた。

「わたしには、健治くんを引き止めておきたくても、どうにもできないんだよ。法律の力には敵(かな)わないんだ」

そういう事情を話しても、男の子はただ憎い相手と対峙^⑥するかのようになり、涙のあふれる目で小田さんを睨むばかりだった。

ようやく平静になったのは、その翌日だった。それらしい泣くことも、だだをこねることもなかった。しかし、そのかわり、男の子の態度が変わってしまった。

何も喋らないのである。

依怙^⑦地^⑧なほど無言を保ちつづけて、小田さんに抗議するかのようだった。

学校でのことも石山さんのいなくなった後のロッキーズのことも、いっさい話してくれない。

この二週間ほど、二人は起きてから寝るまで無言でいることが多かった。

御飯のときやテレビを観ているときに、小田さんが何か話しかけても、

「うん、……ううん」

男の子は短い返事をするだけだ。

これが小田さんには淋しくてならない。まるで、何かの罰を受けているような気持ちになってくるのである。

「それも、……今日の昼までか」

小田さんは、ぽつりとつぶやいた。

④ 買い物帰りの主婦たちが、車道の端を自転車^⑨を列ねて走っていった。

⑤ 車輪の下で、散り敷かれた落ち葉が乾いた音を立てた。

学力検査問題「国語」(その三)

(2022 一般Ⅱ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

(注) 本文の漢字には、問題作成者が必要に応じてふりがなをつけた箇所がある。

問一 傍線部①～⑤のカタカナは漢字に直し、漢字には読み仮名を付けよ。なお、送り仮名があれば、ひらがなで記せ。

- ① オソツタ ② 喋って ③ コズエ ④ タメイキ ⑤ アイサツ

問二 波線部(a)～(c)の語の文中での意味を次のア～カからそれぞれ選び、記号で記せ。

- (a) 悲愴 (b) 対峙 (c) 依怙地

ア つまらぬことでもかたくなに意地を張り、自分の主張を通そうとすること

イ 悲しい中にも、雄々しく立派な態度があること

ウ 他人からは意地悪をしているように見える態度

エ 痛ましい様子で、悲しみに打ちひしがれていること

オ 対立する双方が、にらみあったまま動かないこと

カ 山などが向かい合ってそびえ立つこと

問三 傍線部(1)「眉間に皺がよっている」とは、「小田さん」のどのような気持ちを表すか。具体的に四十字以内で説明せよ。

問四 傍線部(2)「せっかく主人が迎えに行ってくれと申しますので……」という母親は、どのような心情であったか。五十文字以内で説明せよ。

問五 傍線部(3)「唇を引き締めて」という表情は健治のどのような気持ちを表すか。本文から気持ちを読み取ることができる箇所を抜き出し、三十五字以内で書き抜け。

問六 傍線部(4)「買い物帰りの主婦たちが、車道の端を自転車を列ねて走っていった」という描写は、どんな状況を表現しているか。説明として適切なものを、次のア～エからすべて選び、記号で記せ。

ア 櫛通りの人びとが、いつもと同じ日常生活を送っていることを表す。

イ 櫛通りの人びとが、忙しそうに行き来する通りの賑やかさを表す。

ウ 櫛通りの人びとに比べて、再び孤独な生活にもどる小田さんの疎外感を表す。

エ 櫛通りの人びとによって、小田さんが淋しさから立ち直る予兆を表す。

問七 傍線部(5)「車輪の下で、散り敷かれた落ち葉が乾いた音を立てた」という描写は、「小田さん」の心情を象徴的に表現している。どのような心情を表すか。説明として適切なものを次のア～エからすべて選び、記号で記せ。

ア 大人たちに翻弄される健治に対して抱く無力感。

イ 親権に関する法律上の規定には敵わないという無念さ。

ウ 涙を流して別れゆく健治へのいじらしさ。

エ いくら愛情を注いでも、健治と別れなければならない淋しさ。

問八 この物語における「小田さん」と「健治」の心情について、象徴的に表現している情景描写がある。本文から五十文字以内でその一文を抜き出し、はじめと終わりをそれぞれ七字で記せ。

学力検査問題「国語」(その四)

解答はすべて解答题用紙に記入せよ。

2

次の文章を読んで、問一～問六に答えよ。

「私」とはいったい何者であるのか。唐突なようですが、この問いは、国籍や民族、パトリ（故郷）や国家をめぐる分裂や葛藤に悩んできた私のような者に常につきまとう問いかけでした。

思春期のころの私は、この問いから逃れ、もっと楽しい、面白いことがないかと、キョロキョロと外の世界ばかりに眼を向けていました。でも、どこからかいつも、「私」とはいったい何者なのか、と問いかける声が聞こえてくるのです。耳をふさいでも、まるで心の中から聞こえてくる声のように、その問いは私にまとりついて離れませんでした。

「そんなことを考えて何の役に立つ。消耗するだけではないか。自分の人生にとって何の意味があるんだ」

こんな反問が頭をもたげ、そうした問いかけの声を打ち消すのに躍起でした。でもそうすればするほど、ますますその声が大きくなってくるようで、とうとうそれから逃れられないと観念するようになりました。二十歳のときでした。

父母の国、韓国を初めて訪れ、そこで見聞きしたり、考えぬいたことがキツカケになり、私が人生に対して問いかけると言うよりも、人生から私が問いかけられていると思うようになったのです。それは私にとって、大袈裟に言えば「コペルニクスの転回」でした。Ⅰ、それで自我の桎梏から解放されたわけではないのですが。

私は、自分の出自という、自分の力では如何ともしがたい「運命」に眼を向けることで、自分という存在そのものにかかわる実存的な問いに導かれていったわけです。そこから私は「自我」ということについて考えるようになりました。

Ⅱ、「自我」とよく混同されるのは、「自己チュー」ということです。他人の気持ちや都合におかまいなく、自分の考えを押し通したりする人のことで、そういう人と一緒にいると、「自分のことしか考えていないのか」と疲れてしまいます。

② 先の「コペルニクスの転回」を経験する以前の私は、「自己チュー」に凝り固まっていたのではないかと思います。一見するとナイーブな青年のように見えながら、じつは自分の拵えた小さな城から一步も外に出ず、のぞき穴から外の世界を窺うように、すべての人間を疑ってかかり、ひたすら自分のことだけに熱を上げている、そんななかばナルシスト的な「自己チュー」だったのです。要するに、明けても暮れても自分のことだけしか頭になかったのです。

それでいて、屁理屈をこね、「自我」を発見していたつもりでしたので、始末に負えません。でも、「自我」と「自己チュー」は違います。

自我とは何かを説明するのはなかなか難しいのですが、平たく言えば、「私とは何か」を自分自身に問う意識で、「自己意識」と言ってもいいでしょう。

③ 自我とどう向きあっていくかは厄介な問題で、私もずいぶん長く悩みましたし、いまでも「解決できた」と言いきる自信はありません。自我が肥大化すると、がんじがらめになって容易にそこから抜け出せないことがあります。その病理的な肥大化は、相当深刻なところまできていて、「うつ」や「ひきこもり」といった心の病とも深くかかわっているようです。

① そう言われてもチュウショウ的すぎてよくわからない、という人は、漱石の小説を読んでみればわかると思います。Ⅲ、「自分もこなうたってしまふ」とか、「私に似ている」と、共感できる人が多いと思います。漱石は自我の問題に徹底的にこだわりぬいて、生涯それだけを書きつづけたと言ってカゴンではないのです。

漱石が描いたのは明治時代の人びとですが、いま読んでもまったく違和感がありません。漱石は現代人にも十分に通じることを考えていたのです。

ちなみに、面白いことに「自己チュー」と言われる人には、自我に悩んでいる人は少なく、「自己チュー」と言われない人のほうに、逆に、悩んでいる人が多いような気がします。「自己チュー」と言われる人は、人のことはあまり考えていませんが、「自我」について悩みがある人は、たいてい「他者」の問題にも悩んでいるからでしょう。

「自我」の「発見」と言えば、すぐに思いつくのは、十七世紀のフランスの哲学者、ルネ・デカルトの「コギト・エルゴ・スム（我思う、ゆえに我あり）」という有名な言葉です。このメイダイを哲学の第一原理に据えて、明晰判明であることを真理の基準とする物心二元論の哲学を確立したことによって、デカルトは「近代哲学のソ」と言われるのです。

ただ、デカルトは、思惟を属性とする精神と、延長を属性とする物体とを峻別し、近代の機械論的な自然観の基礎を築いたのですが、他方で、その後の哲学に大きな課題も残しました。Ⅳ、デカルトの二元論的な世界像に立つ限り、心身の関係をどう説明したらいいのか、きわめて困難な問題が残されるのです。

さらにそれと関連して、「他者問題」が未解決のまま残されることになりました。つまり、自分の中に、自分を中心としてものごとを考える自我というものがあるとすれば、他者の中にも同じくものごとを考える自我があるわけで、自己と他者の関係をどのように根拠づけるのか、こ

学力検査問題「国語」(その五)

(2022 一般 II)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

の問題がデカルト以後の重要なテーマとして残されたわけです。

自己と他者がそれぞれに自我として独立したままであれば、人間の社会はてんでんばらばらな「自我の群れ」ということになってしまいかねません。

V、おのおのが勝手気ままに自己を中心とする世界像を描いてしまったら、自己と他者の共存は成り立ちえなくなります。そのようなことから、「自分と他者とを結ぶ回路をどのように作れば、共通の世界像を形成できるか」ということが、哲学者たちの根本テーマになったのです。

この問題が哲学者だけでなく、多くの人を悩ませるようになったのは、十九世紀ごろからです。日本では、明治維新以降と言っていていいでしょう。

その背景には、近代科学や合理主義の急速な進展があります。それ以前は「自我」という概念が存在しても、人と人とは、宗教、伝統や習慣、文化、地縁的血縁的な結合などによって、自動的に社会の中でしつかりと結びあわされていました。ところが、科学と合理的思考によって、それらは「ナセンス」として次々に剥ぎとられていったのです。ウエーバーはこれを「脱魔術化(脱呪術化)」と呼んでいます。

その結果、「われわれ」だったものは一つ一つ切り離されて、「私」という単体になってしまいました。こうして、「個人の自由」をベースとした、いわゆる「個人主義」の時代が全盛になるわけです。

こうした時代では個別に切り離された自我は、みずからを確立しようとして、あるいは守ろうとしてどんどん肥大化していかざるをえません。それが「社会の解体」をもたらすことにもなりかねませんし、また「社会の解体」の危機が、自我の肥大化をもたらすというアクジュンカンが⑤続くことになります。

漱石は多くの小説で、過剰な自我を抱えて七転八倒する人びとを描きましたが、そこにはこうした背景があるのです。漱石の小説がときに哲学よりも哲学的な印象を与えるのはそのためです。

(姜尚中、『悩む力』より)

※ウエーバー マックス・ウエーバー。ドイツの社会学者。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直せ。

- ① チュウシヨウ ② カゴン ③ メイダイ ④ ソ ⑤ アクジュンカン

問二 傍線部(1)「それ」の指示する内容と異なるものを、波線部(a)～(e)から一つ選び、記号で記せ。

問三

I	く	V
---	---	---

 に入る語の組み合わせとして適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で記せ。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-----|----|-----|-----|---|-----|-----|-----|----|----|----|----|-----|---|---|----|
| ア | I | と | ころで | II | そして | III | た | ぶん | IV | つ | まり | V | も | ち | ろ | ん | | |
| イ | I | と | ころで | II | そして | III | つ | まり | IV | た | ぶん | V | も | ち | ろ | ん | | |
| ウ | I | も | ち | ろ | ん | II | と | ころで | III | た | ぶん | IV | つ | まり | V | そ | し | て |
| エ | I | も | ち | ろ | ん | II | と | ころで | III | つ | まり | IV | た | ぶん | V | そ | し | て |
| オ | I | も | ち | ろ | ん | II | そ | し | て | III | つ | まり | IV | と | ころで | V | た | ぶん |

問四 傍線部(2)「先の『コペルニクス的な転回』を経験する」とあるが、具体的にどのような経験をしたのか。文脈に沿いながら、「コペルニクス的な転回」の内容を明らかにして、六十字以内で記せ。

問五 傍線部(3)「自我が肥大化すると、がんじがらめになって容易にそこから抜け出せないことがあります」とあるが、自我の肥大化はどのような結果をもたらすと述べているか。文章全体を踏まえて三つの事柄を、それぞれ五字以内で書き抜け。

問六 傍線部(4)「『われわれ』だったものは一つ一つ切り離されて、『私』という単体になってしまいました」とは、どういうことか。六十字以内で説明せよ。

学力検査問題「国語」(その六)

解答はすべて解答题用紙に記入せよ。

3

次の文章を読んで、問一～問四に答えよ。

すべての人が「かけがえがない存在である」ということが腑に落ちなくて、すべての人が「使い捨てだ」、ということなら腑に落ちる、それはどう考えても不幸な意識です。そして不幸な社会です。そもそもそんな意識はどこから生じているのでしょうか。

ひとつは今の世の中の業績主義です。自分で宣言した業績を三カ月後に達成しなければ、評価が下がって給料もバンと下がり、それを何回も続けたらもうリストラされてしまうような会社があります。非正規雇用の問題が注目されていますが、正規雇用であっても業績主義が非常に徹底してきていて、私たちは常に評価にさらされるようになっていきます。

そういう社会では、自分がちよつと業績を達成できなくなると会社からも放り出されてしまうのではないか、という恐れとともに生きることになります。私は常に評価の対象になっている、それは常に見張られているのと同じような感覚です。ちよつと業績が達成できないだけで、すぐさま自分はこの社会から放りだされていくんだ、という意識を、みんなどこかで抱えこんでしまっている社会になっているのです。

それは秘密警察にいつも見張られているような状況です。例えば、ヒットラー独裁下のドイツ、ナチスの時代に、ちよつと反ナチスの本を読んでいると隣の人に密告されて、秘密警察が踏み込んでくる、ユダヤの血が流れていると誰かに知られたとたんに踏み込まれる。あるいは日本の戦前戦中の特高が、あいつは危険思想の持ち主だと聞いただけで捕まえてくる。江戸時代の五人組も、共産主義の国でも、中国の文化大革命の時もそうでした。

二十世紀はそういったリフジンな抑圧から私たちを解放してきた世紀でした。ところがそれに続く二十一世紀に、また秘密警察が復活してきているのです。業績が下がり、評価が下がればすぐにでもこの社会から拉致、抹殺される。そうやって一度負け組になったら、誰もあなたのことをなんか救ってくれないよ、という社会にいつの間にかなりつつあるのです。

一人ひとりが自由にいろんなことをやれるように見える自由主義社会、その自由さを、一見謳歌しているように見えながら、じつはファシズムの時代とか、言論の自由がなかった時代のように、常にどこからか見張られていて、誰かから突然後ろ指をさされて追放されてしまうんじゃないかということにびくびくするような社会になっているのです。

それはとりもなおさず、この社会の中に信頼がないということです。会社にしても、かつての会社であればレイオフ、リストラされるということはほとんどありませんでした。カセギがちよつと悪くても、同期入社でもあの人は部長になったのあなたは万年平社員なの、と奥さんから言われる『釣りバカ日誌』のハマちゃんみたいな人も、イヤミは言われながらも会社の中にはいられて、同じ共同体のメシは食える、という信頼はあったわけです。

今の社会は、共同体からハマちゃんのような社員を外していいんだ、カセギの少ない人間は、すぐに外していいんだ、というように変わってきています。みんな使い捨てなのです。

(上田 紀行、『かけがえのない人間』より)

※ 特高 特別高等警察。

問一 傍線部①～③のカタカナは漢字に直し、漢字には読み仮名を付けよ。なお、送り仮名があれば、ひらがなで記せ。

- ① リフジン ② 拉致 ③ カセギ

問二 波線部(a)～(c)の語句の文中での意味をア～カからそれぞれ選び、記号で記せ。

- (a) 腑に落ちる (b) 謳歌している (c) 同じ共同体のメシは食える
- ア 仲間とともに声を合わせて歌うこと イ 仲間とともに働き、生活を維持できること ウ 食べたものが胃腸に入ること
- エ 仲間と一緒に食事ができること オ 納得できること カ 幸せを皆で大いに楽しみ喜び合うこと

問三 傍線部「そもそもそんな意識はどこから生じているのでしょうか」の問いに対する解答を、本文に即して、四十字以内でまとめよ。

問四 本文には「誰かが常にあなたのことを見張っていて、ちよつとでも社会に反することをすると、すぐに捕まえて来て、社会から葬り去られてしまう。」という一文が抜け落ちている。文中の A ～ D のどこに挿入すべきか。記号で答えよ。

解答用紙「国語」

2022

般 II

検
査
中

1

問八	問六	問五	問四		問三	問二	問一
はじめ	問七					(a)	①
終わり						(b)	②
						(c)	③
						④	
						⑤	

2

問六			問五	問四			問二	問一
							問三	①
								②
							③	
							④	
							⑤	

3

問四	問三		問二	問一
			(a)	①
			(b)	②
			(c)	③

